

(第9報) 日本臨床モニター学会、2018年(横浜市)

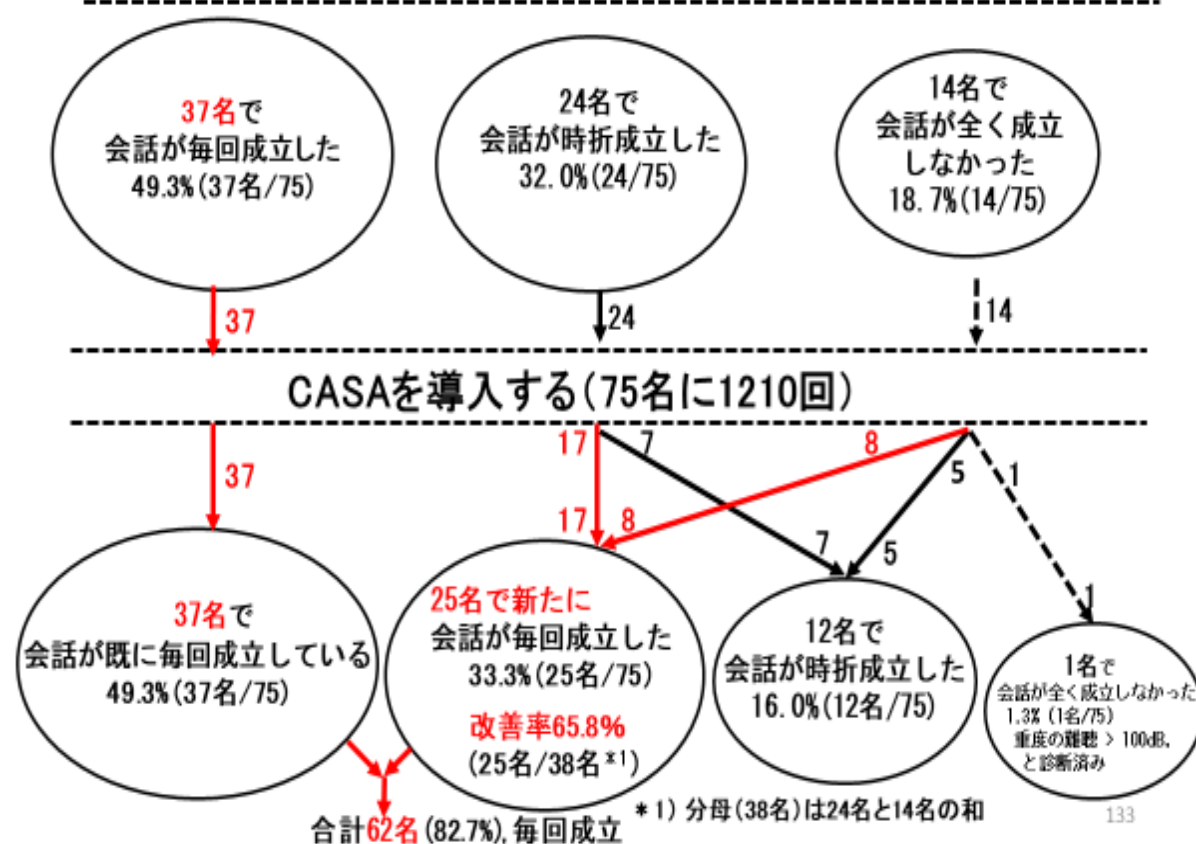
演題名：会話力補助システム(CASA)は毎回会話が成立する人数を75名中、37名(49.3%)から62名(82.7%)に増加させた

発表者：浅田 章、佐藤 愛子、青木 竜太郎

所属：すこやか生野

改善率(新たに毎回会話が成立)は65.8%であった

普段の会話(CASA導入前)(75名に1210回)



概略：高齢者75名に、のべ1,210回の面談を行った。361回で会話が成立しなかった。この361回の内、CASA導入後に新たに251回で会話が成立した(改善率69.5%)。また、CASA導入前に、会話が全く成立しない14名と、時折会話が成立する24名、合わせて38名の内、導入後、新たに25名で、毎回会話が成立した(改善率65.8%)。